2026年度第１回ファイナンシャル・プランニング技能検定１級実技試験

Part Ⅰ（2026年６月７日）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

●設　例●

Ａさん（65歳）は、大都市圏で調剤薬局を営むＸ株式会社（非上場会社）の２代目社長である。Ｘ社は、かかりつけ薬剤師が患者をサポートする体制を整え、地元密着型薬局として業績は堅調に推移してきた。人材面でも、複数店舗を任せられる幹部社員や他の模範となる薬剤師が育っている。ただ、大手チェーンの業界再編に伴う競争激化や頻繁な薬価改定による利益率の低下で事業環境は厳しさを増しており、ＡさんはＸ社の先行きに危機感を抱いている。

Ａさんは、社員の一層のモチベーションアップのため、従業員持株会を設立するプロジェクトを進めている。従業員持株会については、取引銀行の本部専門家から、自社株対策としても効果があることを聞いているが、改めてメリット・デメリットを整理したうえで、その仕組みについて知りたいと思っている。

【事業承継について】

長女Ｃさん（38歳）は、Ｘ社に勤務し、管理部門を統括する妻Ｂさん（63歳、Ｘ社の専務取締役）のもとで実務を担っている。一方、長男Ｄさん（35歳）は、脳神経外科医として大学病院に勤務しており、将来は研究の道に進みたいという希望を持っている。

Ａさんとしては、長男Ｄさんに家業に戻ってほしいとの淡い期待を抱いているものの、性格が異なる兄弟での経営に一抹の不安もあり、長男Ｄさん本人の希望を尊重するつもりでいる。そのため、長女Ｃさんには経営者としての道を歩んでほしいと思っているが、長女Ｃさんは今の業務に満足し、自分が先頭に立つという意識に乏しいところが気になっている。

また、Ａさんは、昨年来、仲介会社を通じて、大手薬局チェーンからＭ＆Ａの誘いを受けており、厳しい事業環境を考えると、Ｍ＆Ａも事業承継の選択肢の１つではないかと感じ始めている。

【資産承継について】

Ａさんは、仮に長女Ｃさんが後継者となった場合に、自身の資産承継について、長女Ｃさんと長男Ｄさんの双方が納得感を得られるよう、何らかの準備をしておきたいと考えている。

【Ａさんの所有財産の概要】（相続税評価額、土地は小規模宅地等の評価減適用前）

１．現預金	：	１億円（役員退職金は考慮していない）
２．Ｘ社株式	：	２億9,700万円
３．自宅		
①土地（200㎡）	：	6,000万円
②建物	：	2,300万円
４．Ｘ社本社兼店舗土地（300㎡）	：	１億2,000万円（注）
合計	：	６億円

※Ａさんの相続に係る相続税額は、約１億7,300万円（配偶者の税額軽減・小規模宅地等の評価減適用前）と見積もられている。

（注）Ｘ社は土地の無償返還に関する届出書をＡさんと連名で税務署に提出し、Ａさんに通常の地代を支払っている。

【Ｘ社の概要】

資本金：3,000万円　会社規模：中会社の大　従業員数：50人　配当：実施していない
売上高：10億円　　税前利益：5,000万円　純資産：４億円
株主構成（発行済株式総数６万株）：Ａさん90%、妻Ｂさん10%
株式の相続税評価額：類似業種比準価額5,000円／株、純資産価額10,000円／株

（注）設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。

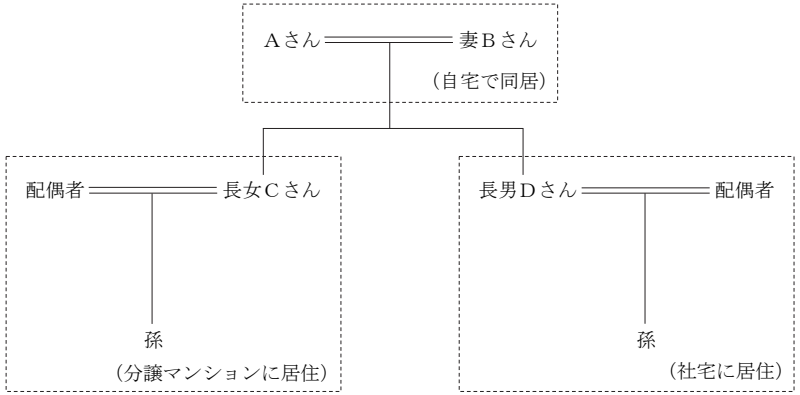
検討のポイント

●設例の顧客の相談内容および問題点として、どのようなことが考えられるか。
●それらの相談内容および問題点を解決するために、どのような提案・方策が考えられるか。
●それらの方策（解決策）のなかで、何を顧客に提案するか。その理由・留意点は何か。
●ＦＰと職業倫理について、どのようなことが考えられるか。

【Ａさんの家族構成（推定相続人）】

妻Ｂさん　（63歳）：Ｘ社の専務取締役。Ａさんと自宅で同居している。
長女Ｃさん（38歳）：Ｘ社の管理部門に勤務。会社員の夫と子１人の３人で分譲マンションに居住している。
長男Ｄさん（35歳）：大学病院の勤務医。専業主婦の妻と子１人の３人で借り上げ社宅に居住している。

【親族関係図】



（メモ余白）